

◀ 巻頭言 ▶

「 実 直 」

理事 萩 田 耕 二 郎

比較的古い船の整備記録に補足資料として現像した写真を目にすることがありました。

現在では作業記録にデジタルカメラは必須で、場合によっては記録や報告に動画を添えることも珍しくありません。

私は業務を離れた趣味の場面でもデジタルのノギスやトルクレンチの使用は何となく避けてしまうようなタイプですが、現在は技術の発展とともに多くの道具が進化して利便性が飛躍的に向上しています。

特に通信の分野においては、インターネットの普及と共に、本船と陸上の間でやり取りする情報量は著しく増加しています。

また、最近では運転諸元を陸上から監視するシステムも構築され、更に進んで、やがては人工知能の技術が用いられた自動運航・自律運航の実用が間近に迫っていると言われています。

人工知能と云えば「ChatGPT」が世間では認知されています。しかし、先に記したとおりのタイプのため、今まで利用したことがありませんでしたが、この機会にテキスト生成系 AI を利用し、「人工知能の技術を活用した自動運航船が機関士にもたらす具体的な影響」についてテキスト作成を指示してみました。以下は AI が出力した内容です。

「人工知能の技術を活用した自動運航船が機関士にもたらす影響は複数ある。一部の業務が自動化されることで、機関士の負担が軽減される一方、高度な技術や AI システムの監視能力が求められるようになる。機関士の役割は変化し、安全確保やト

ラブルシューティングへの対応力が重要となる。更に人間と AI の連携や適切な意思疎通が必要であり、機関士は新たなスキルや知識の習得が求められる。機関士は技術革新に柔軟に対応し、自己成長を図ることが重要となるだろう。」



出力された内容の大筋には何となく納得できるところもあります。特に最後の「技術革新に柔軟に対応」や「自己成長を図る」などはもったもな内容です。一方で「安全確保やトラブルシューティングへの対応力が重要となる」と記された点に対しては具体的な記載がなく納得感を得ることが出来ません。テーマの出し方に問題がある可能性は否定できませんが、今後更に様々なデータが蓄積されることで出力される内容も具体化していくことが予想されます。

さて、ここまでデジタル技術の向上について記しましたが、実際の現場では工具や治具の不適切な使用、計測用具の不正確な使用、また清掃が行き届いていない事による異物の混入などがマイナートラブルの原因となり、そこから大きなトラブルに発展することが容易に想像できます。

「技術革新」に興味を持ち続けることはエンジニアとして重要である一方で「現場での基本的な行動」が今後も重要であることは不変であり、船上でしっかりと次の世代に引き継がれることを願ってやみません。